



城下町遠州横須賀に建つ住宅である。掛川市横須賀は、江戸時代三万五千石の城下町であり町のあちこちに昔の面影が今も色濃く残る。春には桜の咲き乱れる中、江戸天下祭の流れを引き継ぐ三熊野神社大祭が行われ、旧街道を13の屋台が練り歩き、町は祭り一色となる。その旧街道筋に位置する間口3間、奥行24間という細長い敷地。俗に言う「うなぎの寝床」である。家は暗く狭く住みづらいと近年他に土地を求める人も増え空き家や空き地も目立つ。20年程前から一部地域住民と共に町並み保全について、HOPE計画はじめさまざまな取り組みを行って来てはいるものの風情ある町並みの景色は年々崩れていっているのが現状である。そんな中、この町並づくりを理解し賛同して下さった若いお施主さんと共に、決して住みづらい訳ではないこの敷地の活用に加えこの町らしさを表現した家づくりが出来た事は大変うれしく思う。これが地域の方々の家づくり町並づくりへの意識向上に繋がればと切に願う。

静岡県住宅振興協議会 第23回静岡県住まいの文化賞最優秀賞（県知事賞）「城下町の家」



公益社団法人 静岡県建築士会

定価一部250円 送料一部100円
 会員の方には購読料として会費の中
 に含まれています。